

長岡京跡隣接地（^{みぞみち}溝路遺跡）

調査期間：令和5年2月13日（月）～ 3月2日（木）

調査機関：京都市 文化市民局 文化芸術都市推進室 文化財保護課



1 発掘調査について

今回の調査地は、南区久世殿城町に所在し、株式会社大日本科研の敷地内に位置します。この地において、工場建設が計画されました。

現在、京都市は都市の利便性の向上及び地域の活性化を図ることを目的に、JR向日町駅へのアクセス道路となる向日町上烏羽線の未整備区間（国道171号線から向日市域まで）の整備事業を進めています。整備計画予定地の東側は弥生～室町時代の集落跡である「中久世遺跡」に該当します。南側には桓武天皇が延暦3年（784）に遷都した「長岡京跡」、南西側には弥生～古墳時代の集落跡である「野田遺跡」が周知されています。

「中久世遺跡」内の調査では、弥生～古墳時代の流路や飛鳥～奈良時代の建物跡などがみつかっています。また、「野田遺跡」及び「長岡京跡」内での調査では、弥生～古墳時代の水田施設や長岡京期の建物跡などを確認しています。ほかに、長岡京条坊復元案より北側の京域外に道路側溝が延長することを確認しており、長岡京の造営範囲が見直されつつあります。

これらの調査から、令和4年度時点では埋蔵文化財の遺跡範囲外であった整備計画予定地西側にも、遺構が広がる可能性が出てきました。このため、令和3年度から範囲確認調査を行っています。

令和3年度調査の1区では、時期不明の溝及び柱穴、2区では弥生～古墳時代の落込みや長岡京期の土坑などを検出しました（図1）。これにより、整備計画予定地西側にも遺構が展開することが明らかになりました。

以上から、今回の調査地において、さらなる遺構の展開状況を確認することなどを目的として、範囲確認調査を実施することになりました。

2 今回の発掘調査成果

今回の調査は地山直上で検出を行い、落込みや柱穴などを検出しました（図2・3）。

調査区北側では、南から北に向かって緩やかに下がる落込みを検出しました。検出幅は7.0m以上、深さは約0.7mです。北端では、緩やかに起伏する様子が確認でき、調査区外へ広がります。令和3年度調査2区で見つかった落込みとつながる可能性があります。

調査区南西側では、柱穴1・2を検出しました。柱穴1は、平面形が1辺0.8～1.0mの隅丸方形で、深さ約0.7mです。下層から馬の歯、最下層から長岡京期以前の須恵器壺が出土しました（図4）。柱穴2は、平面形が1辺約0.8mの隅丸方形で、深さは約0.5mです。柱穴1・2の柱当たりの大きさは直径0.3～0.4mで、柱間は約2.5m、南北の正方位に向きます。これらに伴う遺構が東側では確認できなかったことから、西側の調査区外へ続くと考えられます。

今回、落込み南側の地山直上で柱穴2基を検出したことで、周辺の安定した地盤上にも遺構が展開すると考えられます。周囲に集落遺跡が展開することから、調査地一帯にも集落が存在していたかもしれません。

3 おわりに

令和3年度及び今年度の発掘調査をふまえ、新たな遺跡の範囲を令和5年度から追加することになりました。遺跡名は、「^{みぞみち}溝路遺跡」（遺跡番号：786、遺跡区分：一般遺跡）です（図5）。隣接地には「中久世遺跡」及び「野田遺跡」が展開するため、調査が進むことで周辺との関係が見出せるかもしれません。（八軒かほり）



図1 調査位置図

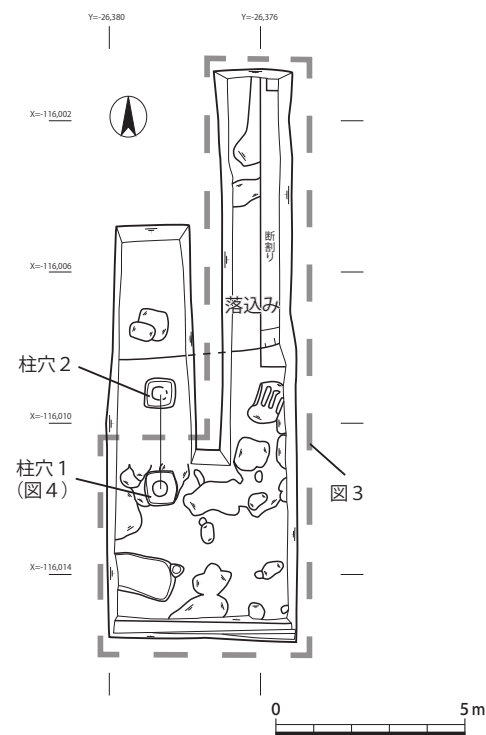


図2 調査区平面図



図3 調査区全景（北東から）



図4 柱穴1遺物出土状況（南東から）

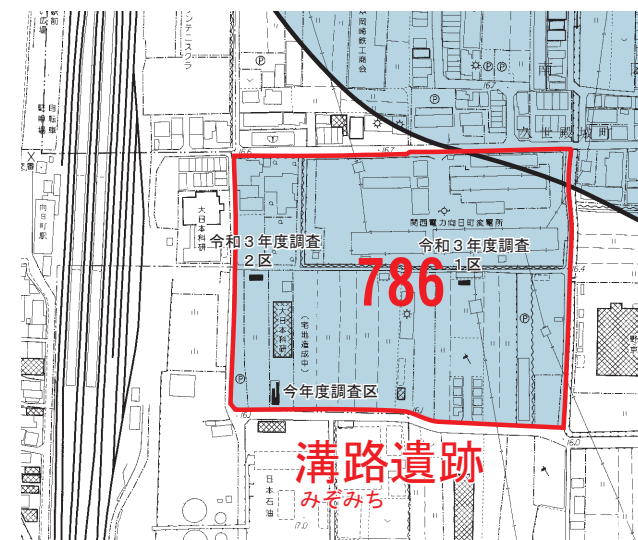


図5 新・遺跡範囲（溝路遺跡）